

平成 29 年度 兵庫県立東灘高等学校

「高校生心のサポートシステム」

実践・研究

本校の指定テーマ

「社会人基礎力を育む」

～心豊かなコミュニケーション能力を通して、
好ましい人間関係を築く取組～

1 本校の実状と概要

本校は、第一学区（神戸市・芦屋市・淡路）に属す。また、比較的労働者人口の多い臨海地域、神戸東部第4工区食品工業団地内に位置し、食品製造工場が学校周辺には多い。企業の方々の協力を得て、ボランティア活動の充実（支援物資の提供）、地元関係機関と連携した体験活動を充実させるなどの教育活動に取り組んでいる。

本校卒業生、地域の方々、過去本校に勤務された職員の方々の努力により、現在の生徒指導は「心のサポート」に力を入れるようになり、並行して進路指導を重視するようになってきている。心豊かな生徒育成のため、兵庫型体験教育「東灘高校版」として、東日本や熊本大震災に係るボランティア活動や、地元関係機関と連携した体験活動を充実させるなどの教育活動に取り組んでいる。

2 方針と具体的な実践

(1) 生徒指導部、心のサポート委員会を中心とした組織づくりを進めた。

ア 3週間に2回（不定期もある）の心のサポート委員会を開いた。

(ア) 各学年が、対象となる生徒に関するレジュメを委員会に提出し、報告を行った。

(イ) レジュメをもとに対処策を審議し、関係部署が実動する。

(ウ) 実動部署が進捗状況の報告を行い、その後のサポートにも繋げている。

(エ) 関係諸機関と連絡を取り、講演会や研修を企画した。

イ 特別指導への対応とサポート指導を充実させている。

(ア) 本校の特別指導の際の謹慎はすべて登校謹慎であり、心のサポート委員が、当該学年と協力して指導に当たった。

(イ) 一過性の形式的な指導に陥ることなく、生徒に寄り添った指導を行っている。

以下の点に重点を置きながら、生徒個々に応じた指導内容とした。

① 規律や望ましい高校生としての在り方を学ばせる。

② 反省指導に加え、自己肯定感、自己有用感を持たせられるような講話をし、文章を書かせて、将来に繋げる。

③ 生徒が卒業後、社会で不安なく生きていける指導を行う。

ウ 心のサポート委員に授業巡回指導の割り当てを多くし、学校全体で授業巡回指導を年間を通じて行った。

(ア) 成果…すべての教師の授業において、居眠り、他の作業（内職）が大幅に減っている。

(イ) 課題…授業に積極的に参加する生徒が増えてきた一方で、教員の教科指導能力を高める必要が垣間見えてきた。

エ 「いじめ対応マニュアル」改訂を受けて、発見・対応方法の見直しを行った。

(ア) いじめアンケートの内容を、生徒が答えやすく、教師が発見しやすいものに改めた。

(イ) 昨年度までは、心のサポート委員会が「いじめ対応チーム」の役割も担っていたが、実動性、即時対応を重視し、メンバーを更に厳選した形で「いじめ対応チーム」を再編成した。

オ 関係諸機関との連携

《主な関係諸機関》

ウィメンズネット神戸 東灘福祉事務所 東灘警察署
東灘区医師会 深江南自治会 神戸少年東部サポートセンター
神戸市こども家庭センター 県立特別教育支援センター
県立芦屋特別支援学校

(2) 全生徒の夢の実現をめざして、規範意識を高め、自己肯定感や自己有用感を醸成させる体験活動の充実を図る。

ア 新入生スーパーオリエンテーション（2日間）において、高校生としての意識改革を行う。コミュニケーションを通して他者理解ができるようになることも目的とする。

イ 東北・熊本ボランティアへの参加

(ア) 成果…① 合計26名の参加生徒にとっては、大変有意義な経験となった。

② 2学期始業式の際に行った体験発表会は好評であった。

③ 地域の企業から支援物資を大量に頂き、現地で支給できた。

(イ) 課題…夏季休業中に、体験学習として2年生全員対象に看護体験実習、ワークキャンプ就業体験、大学見学（教員付き添い）がある。そんな中、同時期に二方向遠隔地へのボランティア

ア参加は、引率職員を含め、他の教員への負担が大きくなってきている。

ウ 東灘祭（体育祭）

(ア) 成果…集団訓練と体育科の時間をかけた取組により、かなり統制のとれた行進や演技ができた。その中で参加している生徒にとっては、自己存在感・自己肯定感を高められる行事だと言える。

(イ) 課題…体育系の授業や行事を苦手とする生徒の増加に伴い、指導が難しくなっている。

(3) 地域での活動を通して、コミュニケーション能力の醸成を図った。

ア 東灘祭（文化祭）

文化祭において、地域企業への協力依頼から展示内容の相談、礼状作成、手渡しまで、生徒が主体的に企業の方々とコミュニケーションをとれるように取り組んだ。

イ ふるさと貢献活動事業さつま芋掘り「秋の収穫祭」を実施し、東灘のぞみ幼稚園をお招きすることで、生徒の「地域貢献」「ふるさと貢献」意識を高められた。

ウ 消防局や大学講師をお招きして講話をしていただき、体験活動としての宿泊防災訓練（校内1泊）を実施した。また、防災アドバイザーによる講演会と水平避難訓練に加え、地域防災会議を本校で開催した。いずれも防災に関して地域との調和を図り、意識を高め合うことができ、有意義な行事であった。



年間取組内容一覧

3月	(1) 中学校訪問による新入生のケア・サポート情報収集を実施。
4月	(1) 新入生登校日に新入生と保護者に対する「サイバー犯罪防止講演会」を開催。 (2) 第1回新入生スーパーオリエンテーション において、高校生としての意識改革を行った。コミュニケーションを通して他者理解が

	<p>できるようになることも目的としている。</p> <p>(3) 全職員による登下校指導及び授業巡回指導を実施。教職員の生徒理解へとつなげる。</p> <p>(4) 職員研修会（生徒理解と指導方法）を実施し、職員の生徒の指導に対する共通理解を促した。</p> <p>(5) 心のサポート委員会を定期的実施（2回／3週）。</p> <p>(6) 職員の指導力を向上させることを目的としてメンター制を導入している。</p> <p>(7) 新入生に対して、スクールエンカウンターの実施。生徒が他者と関わろうとする意識を持たせることと、担任教師との関係において壁を低くすることを目的とした。</p>
5月	<p>(1) 文化祭において、地域企業への協力依頼から展示内容の相談、礼状作成、手渡しまで、生徒が主体的に企業の方々とコミュニケーションをとれるように取り組んだ。</p>
6月	<p>(1) 学校評議員会での意見を参考に、生徒が地域と積極的に関わる仕掛け作りに努めた。</p> <p>(2) 授業公開週間（対象：地域、保護者、中学生）を通じて、本校生について知っていただく機会を設けた。（授業公開は通年実施）</p> <p>(3) 東灘祭（文化祭）を開催し、地域企業や住民との交流を図った。</p>
7月	<p>(1) いじめアンケート①を実施し、他者を大切にすることを意識させた。今年度は「いじめ基本方針の見直し」を受けて、アンケート内容を「いじり」や「いやがらせ」の具体的な内容を質問に挙げ、「したことがある」質問項目に加えることで、いじめの根本となる事象を生徒に意識させる内容に改めた。いじめの抑止となることを目的とした。アンケートの回答を精査し、全ての項目において、担任と学年主任とによる面接を行い、心のサポート委員会と職員会議で報告を行った。2学期、3学期末にも同じ形式で実施した。</p> <p>(2) 地域連携クリーン作戦を開催し、地域への貢献意識を高めた。</p> <p>(3) 生徒防災ジュニアリーダー研修に参加し、地域での防災意識を高めた。（12月の防災宿泊訓練へと繋げる）</p> <p>(4) 暴走族撲滅キャンペーンへの参加。</p> <p>(5) 神戸四校（神戸・御影・葺合・東灘）合同東北ボランティアへの参加。</p>



8月	<p>(1) 熊本地震被災者支援ボランティアを実施し、人とのつながりを実感させ、自己肯定感を持たせることができた。</p> <p>(2) 2年生全員を対象とした、個々に応じた夏季体験学習の実施。〔看護体験実習、ワークキャンプ就業体験、大学見学3校（教員付き添い）〕</p> <p>(3) 職員研修会「いじめ」「カウンセリングマインド」の実施。</p>
9月	<p>(1) 防災教ジュニアリーダー研修報告会、東北・熊本ボランティア参加生徒報告会を実施し、生徒の防災意識とプレゼンテーション能力の向上を図った。</p> <p>(2) 第2回スーパーオリエンテーション（1年）を実施し、コミュニケーション能力の向上と、集団行動を通じて自己の在り方について学ばせた。</p> <p>(3) 東灘祭（体育祭）を開催し、集団行動、周囲との人間関係の大切さを学ばせた。</p> 
10月	<p>(1) ふるさと貢献事業さつま芋掘り「秋の収穫祭」を実施し、東灘のぞみ幼稚園をお招きすることで、生徒の「地域貢献」「ふるさと貢献」意識を高めた。</p>
11月	<p>(1) 1日の創立記念日に、南海トラフ地震を想定し、安否確認メールによる本校独自のシステムを試行した。</p> <p>(2) 校外学習1学年、2学年で実施。古都の文化や伝統に触れることでその理解を深めさせ、計画性をもたせるとともに、集団行動での規律や協調性を身につけさせた。</p> <p>(3) 学校説明会を実施した。</p> <p>(4) 授業公開週間を設定し、保護者・地域の方々に見学に来ていただき、職員間で授業力向上の意識向上につなげた。</p> <p>(5) 学校評議員会での意見を参考に、生徒が地域と積極的に関わる仕掛け作りに努めた。</p> <p>(6) いじめアンケートを、予定を繰り上げて実施した。内容は1学期と同様。</p>
12月	<p>(1) 児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会に参加し、職員研修会を行った。</p> <p>(2) 消防局や大学講師をお招きして講話をしていただき、体験活動としての宿泊防災訓練（校内1泊）を実施した。</p> <p>(3) 防災アドバイザーによる講演会と水平避難訓練に加え、地域防災会議を本校で開催した。</p>

	<p>(4) 兵庫県教育委員会刊行『いじめ対応マニュアル』を使い、いじめに関する職員研修を実施した。</p> <p>(5) 語学研修・ホームステイ体験・異文化交流・国際感覚を身につけさせるためのニュージーランド語学研修を行った。(希望者)</p> <p>(6) クリーン作戦を開催し、地域への貢献意識を高めた。</p> <p>(7) 芦屋特別支援学校から特別支援コーディネーターを招き、研修会を行った。(1月にかけて3回)</p>
1月	<p>(1) 阪神淡路大震災追悼行事を行った。</p> <p>(2) 神戸市シェイクアウト訓練を実施した。</p>
2月	<p>(1) 2学年修学旅行では集団生活、体験活動を通じて豊かな心を育て、集団の一員としての自覚や協調性を養い規律ある生活態度を身につけさせた。</p> <p>(2) 平成29年度「若者・いのち守り隊」～私たちにできること』として、神戸学院大学大学院の方々をお招きし、心理教育プログラム授業をしていただいた。</p> <p>(3) 体力と精神力を育成と自己の限界に挑戦する力の育成とを目的に、武庫川河川敷公園でマラソン大会を実施した。</p> <p>(4) 教員の授業力向上を目指し、1週間授業公開を行った。</p> <p>(5) 学校評議員会を開催し、本年度の本校教育を検証する機会とした。</p>

3 特に成果が顕著である取組

- (1) 特別指導（学校謹慎）における「心のサポート委員」による指導
心のサポート委員は、主任、部長及び人権問題に精通するベテラン職員によって構成されており、講話内容も生徒個々に応じ、核心を突いたものが多い。担任の若手教諭は、傍らで聞くことで、高圧的な指導ではなく生徒に寄り添った指導を学べる。

- (2) 新入生を対象としたスーパーオリエンテーション

4月早々に実施。1日目、体育館に教室の机を運び込ませ、授業開始終了時の「起立、礼」の指導。高校生活全般や各部部長から説明を受けさせる。2日目は集団行動と部活動紹介を行う。これにより、高校生活の緊張感を長く持続させることができる。体育大会の行進や演技への影響も大きい。今年度は、他校からも見学に来てい



今年度は、他校からも見学に来てい

ただいた。

(3) 心のサポート委員会が主催した取組

「特別支援学校の特別支援コーディネーターによる研修」

「特別支援教育センターとのつながりの強化」「大学院心理学研究室による、心理教育プログラム授業」を実施した。



4 新たな課題

支援を必要とする生徒への対応、いじめ予防・対応において効果があらわれている。ここでいう効果とは、善策の話し合い・共通理解を推し進め、職員全体での情報共有、方針の徹底などである。

来年度以降は、特別支援の必要性や「心のサポート」のさらなる充実を念頭に、生徒の心に寄り添う教育を目指す。学校外部諸機関や大学との関係を深め、協力を仰ぎながらこの事業実践を展開していく必要がある。